

## 高校生へ 私が選んだ 1冊の本

### ヒトはなぜ難産なのか —お産からみる人類進化—

奈良貴史：著  
岩波科学ライブラリー

ヒトの出産について、私たちはどれだけ知っているのでしょうか。私はほとんど知らなかったのですが、まず表題を見て驚きました。ヒトは難産だったのか…と。この本では哺乳類の中でなぜヒトだけが難産なのか、何が原因で難産なのかという点について、写真や図、例を用いて分かりやすく書いてあります。ヒトの分娩所要時間は、初産では平均15時間で、他の哺乳類と比べると遥かに長く、同じ霊長類のチンパンジーの約2倍です。また陣痛の痛みを男性は耐えられないと聞いたことがあります。この本によると陣痛は、骨折時の痛みより強く、指の切断時の痛みには及ばないが、それに近いものらしいです。陣痛が長い上に、それ程の痛みを伴うと知り、「難産」と一言で片付けられない重みを感じました。

ヒトの難産は、ヒトが二足歩行をはじめたことや脳の肥大化が原因だそうです。直立二足歩行になり、内臓を支える筋肉が発達し、骨盤の穴を塞いでしまったのです。ゆえに、ヒトの身体は筋肉が出産の際には出口を塞ぐ構造になり、産道が曲がりくねって複雑化しました。また同じ霊長類でもその多くは産道の直径よりも児頭の大きさが小さいのに対して、肥大化した脳を持つヒトは児頭と産道の構造の直径がほぼ同じで、産道をスムーズに通り返ける余裕がない上に、複雑化した産道を通らないと胎児は生まれません。児頭が骨盤の最も狭い地点より大きいと、帝王切開となり、古

くは古代ローマから実施されていたそうですが、母子ともに生存できるようになったのはここ数百年のことです。ヒトの出産は母体の危険と背中合わせだと知りました。

出産のときの体位は世界各地で40もの違いがあり、痛みが少なく、少しでも楽な出産方法を模索するため、人々は長い間試行錯誤を繰り返してきたことも初めて知りました。科学が飛躍的に発達した現代では出産の医療化はごく普通のことになっています。私は双子なのですが、母は出産に際して私たち兄妹が未熟児で生まれてこないよう、陣痛を遅延させる薬を使っていたそうです。おかげで私たちは健康な生を享けましたが、ほんの数百年前だと私たちのような双生児は無事生まれることが随分難しかったのだと思いました。ところが現代では妊産婦側や医師側、病院経営側の事情により、必要のない人まで帝王切開する場合があります。

哺乳類の中で骨盤の形が雄と雌とで異なっているのはヒトだけだということに人類学者である筆者は衝撃を受けたそうですが、それは二足歩行と脳の肥大化という進化を遂げたヒトが、その代償として受け入れなければならなかった難産を少しでも軽減するための別種の進化であったのでしょうか。出産の歴史や解剖学的見地から読み取ることができる情報には、説得力があります。どうしてヒトが難産になったのかがよく分かりました。お産の医療化は安全な出産に多く寄与しましたが現代のように正常な出産まで帝王切開を用いたり出産時期を薬でコントロールしたりするようなあり方はヒトとして適切なお産といえるのでしょうか。筆者の締めの一文“ヒトが歩んできた出産の歴史の一コマを知ることは、お産を見つめ直す機会になるのではないだろうか”のとおり、男性も女性も、お産について考えてみませんか。

(愛媛県立西条高等学校2年 久門 岳弘)

通巻第74号  
2013年9月25日 印刷  
2013年9月30日 発行

©編集・発行

実教出版株式会社

代表者 戸塚雄三

定価 (本体200円+税)  
発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5  
TEL. 03-3238-7777  
<http://www.jikkyo.co.jp/>